

1960年末現在



のに十分であつた。一きつめに働
らき、安らかに暮らしてゐようとい
う私たちの望みは、三池の闘いの
中で切実に示された。

国会をとりまく安倍反對のデモ
は、岸内閣を倒し、アイゼンハワ
ー大統領の訪日阻止、ウソ機を
日本から追ひ出した。だが新安倍
りかてまれた基地、物資補給を断
られた駐留軍。それは戦わずして
敗北となるかも知れない。アメリ
カで海外基地を必要としない大陸
間弾道弾やボリスに国防重点が
移つてきたことは、日本国主を利
用する戦略の転換をしめすものだ
安倍反對のデモでも、日本を戦争

アメリカに臣属した日本経済、と
くに貿易関係に深刻な打撃をあた
える。アメリカ政府がとつた対外
軍費削減、米商品優待充つ
けなどの措置は、年間四一五億ド
ルの特種収入にささえられた日本
の外債地位を非常によくする。

第三に「自由化」王力の強化で

確実な前進の六一年へ

く日露戦争をもつた。日独伊三國同盟に今ぞ成れる世紀の橋と拍手喝采した。年後に、太平洋戦争に突入、ヨーロッパでは独伊がアジアでは日本が連合軍と戦い、ともに大敗した。軍事同盟の上への美しうたい交向になまじつていふと、戦争は敵を、與にかなひぬ。

こうして独占資本と池田政府は一方で外資輸入の促進による外貨不安の緩和と産業合理化の徹底、

三

鈍化、輸入の増大と対米赤字の増大はますます激しくなり、外貨事情はいつそう不安定にならないわけにはいかない。

たが、國はアメリカ、アメリカは英國にも安泰は死滅、この評價
対日軍事情勢の再検討が生まれて
いる。平時に大輸値の訪問を阻止
した日本國民の反対運動は、戦争
が迫ればそれほど大きく、かつ激
しくなるであらう。チ干隊にと
九六年は平和に生き、明るい豊
かな社会を築くための闘いをつづ
け、少しずつ、しかし権要な前進
をとげなくてはならぬ。

南アジアへの資本と商品の輸出拡
大に努力をかけたひるものとおも
われる。こうした「日米経済協力
」の路線とはげし内外の競争は
すべからざる産業の労働者に合理
化攻勢がいちだんと激化するこ
とを物語る。

「自由化」の打撃深刻
早くもつまづく所得倍增計画

早くもつまづく所得倍增計画

設計圖をくりあげ、拡充しはじめた。鉄鋼は一九〇〇年度に粗鋼生四千八百トン、一〇〇年度二千二百トン、これより増すアメリカ力についで資本主義国第二位の労働を基礎にすめられていた猛進な合理化攻勢は、一方で独占資本に巨大な利潤をあたへ、設備投資、重化学工業を中心とする拡大を可能にしているが、他方で労働力に要求しはじめた。国鉄で下下は要求しはじめた。三、四年に上は要求しはじめた。三、四年に

位となる。）をめぐし、自動車は六五年度百万台、六八年度十四万五千台、をめぐして、石油は〇年度には五九年度の四・三倍、一被機械は六倍、電子機器は二〇倍をめぐして等々。

郵政階級の貧困化をはげしくし、生障と高慢の矛盾、生産部門間の不均等を激化させる。繊維産業の慢性的な過剰生産にぐわへ、テレビの売れぬき頭うちをキソカゲに耐久消費財の過剰生産が深刻とな

に六五年度に年一五万五千の増加が、また定雇法の廃止と公務員の大盤官切りも取沙汰されている職場のしめつけは激しく、活動家の追及、労働運動への攻撃と分業、全労働成もつよめられるだろう

二
こうした設備投資を主因として六二年の日本経済も基本的には拡大傾向をたもつておられる。だが経済情勢は不安定で動揺にみちたものになり、翌年の足下りは鈍くつゞいて、上層紙の過剰生産も深刻となるもの、鋼材部門にすでにあらわれてゐるの伏魔は海運、造船、航空の過剰、炭鉱の閉坑とむすび重化学工業の発展を制約する第二に世界景気の悪化である。

きからの解放めとして、果敢な闘
いの戦つてゐる。米海兵隊は休
として差し出そうとする者への怒
策、軍事費の増大等々これに奉
仕するものである。独占資本は投

なるだろう。

第一に、日本特有の低賃金と過
とくにアメリカのドル危機の深化
と六〇年頃からじまつた恐慌は
一野蠻の方向にすすむことを勝
利の道であるとおもわれる。